

## 日本のテレビ史上 最長寿の演芸番組「笑点」5月で放送50周年へ

日本人の会話に定着した「座布団一枚！」

## あの座布団が生んだ、笑点50年の歴史

## 「笑点 放送50周年特別記念展」、まもなく開催！

日時：2016年4月27日(水)～5月9日(月)

会場：日本橋高島屋 8階ホール / 入場無料

主催：日本テレビ放送網株式会社

特別協力：ユニオン映画株式会社 / 企画製作：株式会社日本テレビサービス

公式 HP: [www.takashimaya.co.jp/store/special/event/shoten.html](http://www.takashimaya.co.jp/store/special/event/shoten.html)

## ■「罰」ではなく、「ご褒美」をあげる

1966年5月15日放送を開始し、日本テレビの最長寿番組として、今年50周年を迎える国民的人気番組「笑点」。笑点の大喜利から生まれたこの言葉は、褒め言葉として、いまやすっかり日本人の会話に定着しています。いい答えには座布団を与え、悪いと取る。笑点の大喜利の特徴であるこのやりとりは、「金曜夜席」という笑点の前身番組で生まれました。当時すでに他局でも大喜利を行う番組があり、答えが面白くなかったり、間違いをおかすと、顔に墨を塗ったり、張り扇で頭を叩いたりして笑いをとっていました。

## ■「顔に墨を付ける」というような罰を与えるのではなく、何か変わったものにしたい

金曜夜席の立ち上げを担当した元日本テレビ チーフプロデューサー小暮美雄氏は初回収録までわずか3日と差し迫るなか、新宿の末広亭へ。嘶も上の空のまま、アイデアが浮かばず、表に出たとき、同じく寄席から出てきた二人組の会話が耳に入りました。

「どうして落語家さんが代わる時、下の人が出て来て座布団を裏返すの？自分でやればいいのにね」

“落語家が座るところが高座、高い所をもっと高くしたら喜ぶかもしれない——。”

こうして笑点50年の歴史は始まりました。

※初代は淡いブルーだった大喜利の座布団。その後ピンクを経て、現在の紫色に落ち着きました。布地はちりめん。落語用の座布団と同じく、家庭にある座布団よりかなり大きめのサイズです

## ■「座布団十枚！」初めて獲得したのは歌丸師匠

第一回の座布団十枚は、番組開始1年後、歌丸さんと小痴楽さんが獲得しました。賞品は「香港に行って餃子が食べられる！」ところが香港に行く予算がありません。伝え聞いた船会社が、香港2名分の船チケットを番組に提供してくれ、歌丸さんらは無事に10日間の船旅を楽しむことができました。

その後の賞品は「家1軒もらえる(実は犬小屋)」、「徳川御埋蔵金(5枚の雑巾)」、「幻の名水石清水(“水に鯛をつけたもの)」、「2001年宇宙の旅(府中で買って来た2001円の足袋)」などなど、いかにも笑点ならではのおバカな賞品ばかりが続いたのでした。



©NTV

「笑点 放送50周年特別記念展」は、笑点の50年の歴史を様々な視点から振り返る年史コーナーをはじめ、大喜利の舞台を再現したセットや、番組内で使用された小道具の展示、歴史・エピソード・番組の裏側など、見どころ満載で開催いたします。

## 【掲載に関するお問い合わせ先】(掲載不可)

株式会社高島屋 広報代行：株式会社ブレインズ・カンパニー 担当：杉本・村山

TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 E-mail: [sugimoto@pjbc.co.jp](mailto:sugimoto@pjbc.co.jp)